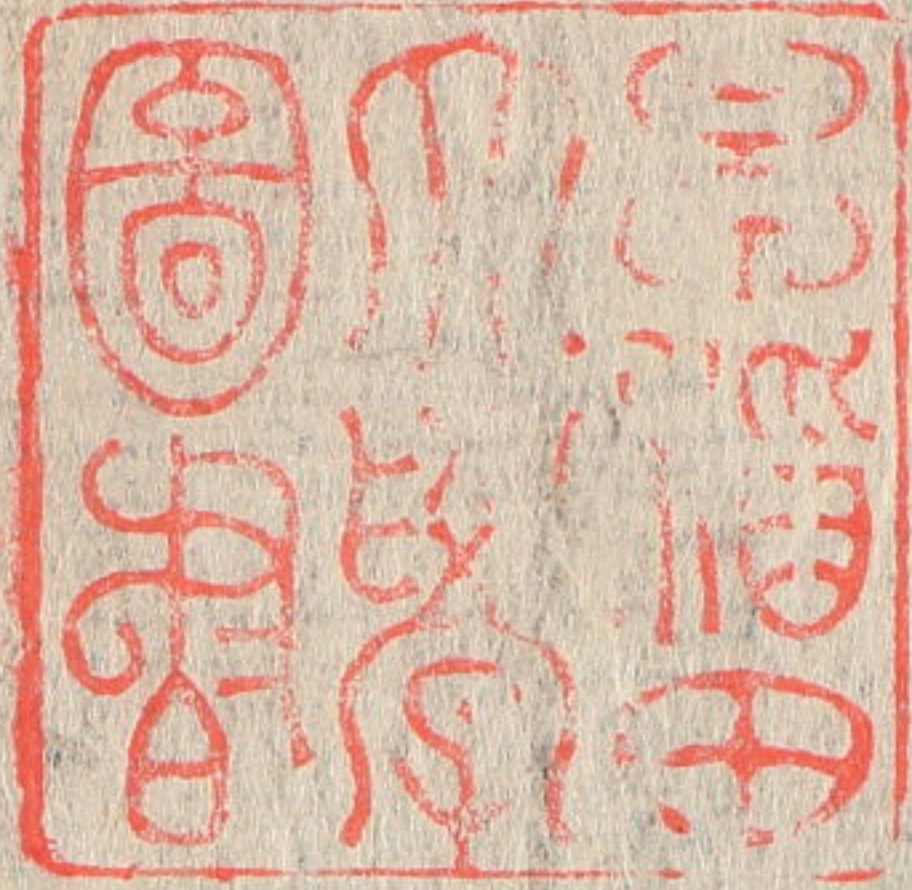


朝夷巡島記第七編
五



13
704
35





東洋源謙侯考槃錄事相州朝臣七考書畫家必用之書也

題詞詩剛全二冊 題詞詩選全壹冊

吳縣先生撰輯

書畫比白宣

皇朝明題

廣用指腹中本全書一冊

題詞詩選

書家必用の小冊諸君子常小案上小滿當女すを
其用本々増をから詩集の中絶句
聯句云も更あり數字より少許絶句云々
其自注を得るは其の書と新本の君子
必携に易の珍寶とも可相小冊あり

書肆

大阪北久寶寺町心齋橋

前川源七郎梓

明治三六年
十月九日
購未

朝夷巡島記全傳第七編卷之五

東都

松亭金水編輯

續輯第九

奸計彌粗語般城酷吏
天誅直臻隱毒報

そ是災妖の善政の勝を夢怪の善行の勝をとりぬ。是天地の定理なり。然
もとも時としてその愛もまた無に能はざり。朝夷の忠直もまた一点の
過るれも。浮雲天日と覆ふ不爲。一霎時その明と暗まんと交わり。再説當
下阿武隈大夫の時直がその果てを俟て。一坐の人と袂を分ちて。呵々と
ちち笑ひ。傳えきく朝夷大人の器量骨柄衆の勝も。多氣運ましく忠
勇仁義の人なりと世のいひ。這回始めて見えしと交わり。いふも人の噂ふ
差のぞ。天晴るる武士なりと心も感へ漫小恐る。思ひさしむも一件の



と小於て吾^{わが}と死^し愚^ぐ鈍^{どん}の者^{もの}も忽^{たちまち}地^ち心^{しん}劣^りのせ^せま^まり^り。ま^まど^ど青^{あお}春^{はる}を
 在^あま^まま^ま。酒^{さけ}真^{まこと}のう^う小^こ戯^{たわぶ}言^{ことば}と宣^{のたま}ふも妨^{さまた}あ^あじ^じ然^{しか}と^と頼^{たの}み^み従^{したが}ら^らざる^とて。
 對^あ身^み不^ふ足^たらぬ婦^め女^{にょ}と縛^{しば}れ。責^せめ^める^るも大^{おほ}人^{ひと}も^も將^{まさ}と^と威^{おど}威^{おど}嚴^{げん}不^{おそ}惶^{おそ}て。
 胸^{むね}の^の脹^はら^ら一^{いつ}塊^{かたまり}も^もせん^{せん}。夫^{おつと}不^ふ及^たび^び難^{がた}う^うふ。吾^{わが}と^と怒^{いか}る^るも^も假^{かり}て。害^{がい}さんと
 ある^{ある}。ま^まど^ど是^{こゝろ}を^を怒^{いか}る^るも^も鉄^{てつ}角^{かく}が。妹^{いもうと}あり^りとの^の難^{がた}頸^{くび}難^{がた}向^{むか}在^あ下^{した}多^{おほ}口^{くち}と^と禁^{かぎ}ると。
 少^{すく}捨^すら^らま^まぬ^ぬ所^{ところ}あり。そ^その^の怒^{いか}る^るも^も直^{ただ}と^と小^こ少^{すく}う^うら^らん^んと^と宣^{のたま}へ^へど^どう^うく^くも^もあ^あら^らん
 ら^らく^く。鉄^{てつ}角^{かく}矢^や藤^{とう}五^ごと賊^{ぞく}の^の魁^{くわい}首^{しゅ}が^がの^の修^{しゆ}羅^ら五^ご郎^{らう}が^が二^に三^{さん}の^の者^{もの}と^と。既^{すで}ふ^ふの
 地^ちと^と逐^お電^{でん}う^う。往^{むか}方^{かた}あ^あら^らま^まら^らる^る時^{とき}も^も。若^わ国^{くに}い^いえ^えより^{より}東^{とう}山^{さん}東^{とう}海^{かい}。そ^その^の他^{ほか}
 諸^あ人^{ひと}象^{しやう}の^の。嚴^{げん}と^と探^たし^し索^{さく}め^めよ^よと。觸^ふ示^しされ^らる^る罪^{つみ}犯^{はん}人^{にん}の^の妹^{いもうと}と^とる^る處^{ところ}
 女^めと^と。何^{なん}の^の故^{ゆゑ}ふ^ふ家^{いへ}小^こ養^{やしやう}ひ^ひ。且^{かつ}時^{とき}直^{ただ}の^の側^{かた}室^{むろ}と^とま^まき^き。是^{こゝろ}を^を都^{みやこ}て^て迹^{あと}形^{かたち}る^る死^し。
 作^{つく}と^と言^{ことば}とい^いは^はせ^せも^も知^しま^まら^らず^ず。思^{おも}ふ^ふ小^こ勢^{せき}も^も心^{こゝろ}不^ふ従^{したが}ら^らぬ^ぬと^とて^て傳^{つた}め^めら^らま^まり^り。

其^{その}索^{さく}脱^{だつ}て^て今^{いま}あ^あら^らま^ま。明^あ地^ち不^ふ絆^{はん}と^と言^{ことば}ま^まふ^ふ。深^{ふか}く^く憎^{にく}む^むと^と重^{ぢゆう}罪^{ざい}る^る。矢^や藤^{とう}五^ご
 が^が妹^{いもうと}と^とい^いひ^ひ。且^{かつ}し^しも^もく^く覚^{おぼ}え^えも^もな^なき^き。空^{そら}言^{ことば}ま^まふ^ふら^らち^ち交^まて^て。罪^{つみ}の^のひ^ひ多^{おほ}し^し心^{こゝろ}ふ^ふ。开^{ひら}
 い^い大^{おほ}人^{ひと}も^も似^に合^あは^はる^る。比^ひ怯^{けつ}の^の舉^あ動^{どう}傍^{ぼう}痛^{いた}し^し。今^{いま}日^{にち}檢^{けん}断^{だん}の^の場^ばあ^あて^て。知^ち縣^{けん}
 と^と始^{はじめ}農^{のう}夫^{ふう}と^と集^つ令^{れい}て^て仁^に義^ぎの^の道^{みち}と^と説^せき^き。言^{ことば}下^{した}小^こ諸^{しよ}人^{にん}と^と服^{ふく}させ^せり^り。実^{じつ}ふ
 凡^{おほ}人^{ひと}の^の及^{およ}ぶ^ぶ所^{ところ}。得^えぬ^ぬ大^{おほ}人^{ひと}と^と称^なする^る間^まも^も。婦^ふ人^{にん}と^と侮^あむ^むと^と言^{ことば}と^と經^へて^て。その^{その}身^み
 の^の罪^{つみ}と^と通^とれ^れん^んと^と。計^{けい}校^{こう}の^のふ^ふい^いと^と探^たし^し。ま^まど^ど仁^に義^ぎの^の大^{おほ}道^{だう}あ^あら^らま^ま。さ^さや^やの^のい^い何^{なに}
 ま^まの^の巻^{まき}。何^{なん}の^の扁^{へん}ふ^ふと^とる^る故^{ゆゑ}事^{こと}を^を博^{はく}識^し強^{きやう}紀^きの^の朝^あ夷^い大^{おほ}人^{ひと}が^が奇^き説^{せつ}の^の聽^きせ^せ
 顔^{かほ}り^りけれ^れ。猶^{なほ}ま^まど^ども^も双^{ふた}び^びる^るに^に。明^{めい}智^ちの^の人^{ひと}と^とい^いは^はれ^れ。孰^{いづれ}も^も明^{めい}智^ちで^でな^なら^らぬ
 の^のの^のん^んと^と飽^あま^まで^で嘲^あけ^ける^る言^{ことば}葉^えの^の端^{たん}時^{とき}直^{ただ}扇^{せん}と^と半^{はん}閑^{かん}き^きて^て。阿^あ武^ぶ隈^{かい}が^が口^{くち}ふ
 お^おあ^あて^て。あ^あの^の醉^{すい}愚^ぐと^と但^{ただ}し^しま^ま。物^{もの}狂^{きやう}ひ^ひふ^ふ覚^{おぼ}束^たま^ま。身^みの^の分^{ぶん}際^{さい}も^も絆^{はん}へ^へど^ど。貴^き
 人^{ひと}へ^へ對^{たい}して^{して}无^む礼^{れい}の^の口^{くち}徒^た其^{その}速^{すみ}不^ふ退^{たい}ら^らぬ^ぬと^と。朝^あ夷^い大^{おほ}人^{ひと}と^と何^{なん}と^とい^いは^はれ^れぬ^ぬ。孫^{そん}倉^{くら}

よりの内使則君の名代されば任意道理不協なる事ありとも吾が詰り
 責べきことありんば凡そ下とて上と學ぶ。和漢古今の通受なり。此頃後念の
 相識仁より。吾が書翰と贈と越る。その文面と閱する。君は只管放逸の
 慕りてひて色と愛安達景盛と三河へ下し。その愛妾なる雀鶴と奪ひて
 左右小侍ら。昼夜遊真做し。今もわれ景盛が帰参するまじりたる
 べき。といある人なふ汗と握りぬるものも。其の君はの貴族なむて。理の
 まご勝ざる所なり。既小三河の草賊と。一戦小切平らげ。日。毛凱陣せし
 処小妾の居る。景盛盛の。その家僕とせめ。ことと亂れ。世の風波あり。如此
 あり。と。さて。景盛大怒。と。相恩の君なりとも。人倫小闕する。挙動亦
 相違なき。小放り。怒と奉らんと憤る。その由頼小言えし。君はの深く嫉
 ませり。且近臣等が勸めふ。景盛追討すべきの結構。景盛は
 その由とて。尼の臺の館へ参り。只管愁訴をさし。尼君憐れし。思
 さまて。安達が邸へ。とせり。使とて。柳管へ安達は父祖より旧功あり。
 然る。何の罪と。処の。追討すべき。結構なき。その意と得。速に
 止まり。人。備ま。強て討んと。す。吾等と對て。その後。計り。人。嚴る。
 尼の臺の館。柳管も力多。真小軍旅と罷ら。若尼の臺。み。若
 あり。珍事の出。未べ。実小浅増き。世間。具小認め。越。朝夷
 刀。稱。其の。露臣。且君の名代。文。小。做。君。臣
 古風と守。今時の。流行。疎。今。大人。人道。闕。と
 深く責。行。吾君と。責。似。善。これ。親。口
 嚙。倍。然。岩。瀧。羊。瀨。然。阿。武。隈

その由とて。尼の臺の館へ参り。只管愁訴をさし。尼君憐れし。思
 さまて。安達が邸へ。とせり。使とて。柳管へ安達は父祖より旧功あり。
 然る。何の罪と。処の。追討すべき。結構なき。その意と得。速に
 止まり。人。備ま。強て討んと。す。吾等と對て。その後。計り。人。嚴る。
 尼の臺の館。柳管も力多。真小軍旅と罷ら。若尼の臺。み。若
 あり。珍事の出。未べ。実小浅増き。世間。具小認め。越。朝夷
 刀。稱。其の。露臣。且君の名代。文。小。做。君。臣
 古風と守。今時の。流行。疎。今。大人。人道。闕。と
 深く責。行。吾君と。責。似。善。これ。親。口
 嚙。倍。然。岩。瀧。羊。瀨。然。阿。武。隈

と。左右ふとせ朝夷と。嘲と褊とる言葉の端。性急なまぶ忍びぬ。その口と引裂衣をん。腸さるも沸か。鬚髪逆さる白眼つめ。妾時良き。是と思ふ。酒與ふ衆。貴族の車。差別ある。斯く辱らる。虎の鬚。一挙動。直ふ怒。縛と起さ。虚小乗て人と集令。吾と害して。坐の喧嘩。あざむ。酔狂ひて。人と過めん。餘多。斯のど。あれぬ。言。準備と。兎も角。吾身一己の。任意死。今時直ぐ。聴小。安達が妾と奪ひ挿。君寵愛を。安達其う。及び恨。嫉ま。既小軍勢。わけて。集と誅せん。心計ら。全くと。虚言。言語小絶。一挙動。世を。洗ふ。後令。垣間見。君の愛。逆。これと

強て諫め。思ひ駐まり。君の悪と助け。天下小汚名と流す。是中野以下の小人。諂諛と。計らひ。嗟痛。此と彼。思ふ。人心。右幕下の創業。倉の竟。哀。歎。猶餘。只管。歎息。怒。撓む。思へ。先。後。の。雑言。の。ま。や。の。釋。直。此。方。小。對。の。髮。城。姓。阿。武。隈。大。夫。无。礼。の。妻。妾。と。誑。と。明。智。何。者。評。明。智。遠。吾。及。ね。ど。頭。と。誠。と。詞。の中。小。吾。と。穢。抑。官。安。達。が。妾。と。奪。虚。実。の。吾。知。ら。れ。ど。その。朝。茶。以。て。奇。怪。多。くの。苞。直。と。受。美。田。と。以。て。瘠。地。小。換。へ。夫。より。既。小。事。起。や。擾。乱。の。端。と。用。く。その。非。道。さ。る。挙。動。あ。ま。ば。後。日。の。雜。と。慮。と。一。点。と。あり。顔。小。嬌。婦。と。語。ら。ひ

吾われとて非ひ父ぎの族うぢ小こ陷おちさんとと。言語げんご小こ絶える白痴ちやくちともう。汝なんぢをいふ争あそ
 ひて。吾われと陷おちさんと欲ありまるとも。吾われ既す小こ兩眼らうがんありてその面魂めんこんの不良ふりやうと知しる。
 既す小こ兩の耳みみあまひ。言こと下くだふことと怒いらせ。その虚きよと好この人の計けい我われの。
 さまは汝なんぢをこの嬉うれ婦ふ俱とも小こ搦なめて將いて飯い。公こう問もん所しよ小こ於おてその是非せいひの公裁こうさいと
 請うけんと。勿な論ろんるものな。城じやうの豫よて北條きたじやうの二ふた三さんの愛あいらるもの。
 受けは是これとて往むかき罪つみ小こ陷おちさ。執権しやくけんの。さそを悔くと。かひらぬ。吾われ直道ちやくどうと好このむ
 とし。とも。執権しやくけんの君きみの外戚がうせき殊こと小こ往むか昔むかし右幕府うごまくふの時ときよりして大功たいこうあり。用もちかも重おも
 き其人そのひと小こ恥ちと胸むねして何なんふせん。殊こと小こ在あ下くだの君きみの昵近じやくじん人と正ただまの職しやくふあ。這回このこ
 餘あま受うる君きみ今いま小この檢断けんたんの圖ずらんと。丈夫しやうぶ小こ濟すばる他た。ま。何なんと。穿うち正ただ
 也なり。さ。吾われ小こ誇こほるの心こころあ。元来もと吾われ性しやう急いなり。聊しか非道ひどうと称なづふ。さ。吾われ小こ
 抱かき。さ。吾われ小こ思おもひ。さ。吾われ小こ思おもひ。さ。吾われ小こ思おもひ。

悔くまふ。と。空そらあ。してあ。ま。あ。ね。と。這この執権しやくけんへの好意このあり。汝なんぢ達なんぢらこれとよく
 心こころけて。一旦いつたんの身みの誤あやと懺悔ざんげして。ま。ま。任まかせ。され。昨今きのう心中こころ小こ狭せまい。念ねんも解とけ。
 双方ふたう平安へいあん小こ至いたる。只ただあ。這回このこの君きみ今いまの。使つかさる。身みと願ねがふ。性しやうと曲まて。事ことと
 虞あやふ。実まこと小こ汝なんぢ達なんぢらが。僥倖やうじやうあり。思おもふ。あ。似にぬ。會あひ。小こ御ご會かい權けんけて。今いま更さら小こ心こころの
 巧たくと粗こ雑ざつひ。如何いかいせん。思おもへども。元もとま。已いの意い趣すあり。湯島ゆがしま密使みつしの故ゆゑ
 と。て。廻めぐら。と。計畧けいりやくあり。け。無事むじ小こ治ちめて。飯いら。て。密使みつしの詮せんも。さ。れ。の。さ。う。
 後のち小この。崇たかま。う。思おもふ。猶なほも。思案しあんと。疑ぎと。時直ときちやく左右さうぶの肘ひぢと。法はふも。思おも
 り。と。と。の。さ。ま。此こ処この。農のう民みんより。首あたま首くびと。請うかて。ま。ま。不ふ應おた。田園でんえんと。願ねが
 ち。と。と。と。聊しか覚しやくえ。ま。ま。誰たれう。ん。身み小こ告つぐ。ま。その本人ほんにんと。聽きま。欲ほし。支し
 の。ま。ま。と。一いつ条じやう。吾われと。知しる。所しよ小こ於おて。然しから。一旦いつたんの誤あやと。懺悔ざんげせ。と。い
 何なんの所しよ謂いを。は。や。その後のちの。心こころ得とが。と。在あ下くだ假令かじやう執権しやくけんの。員ひき小この。と。と。



罪あつて正しういふて遠慮不及ぶきといひて誓まで信と祝ふ。今の如くふ
 いふれても口と喋る物いふぬ。朝夷刀称のいふていふて虚云と構えつ。
 吾身と危ふるを倘然らまの其処へ出て。在の隨意に頼言へ但いその
 威小畏まじや。と跋眼をまじすつくと今秋もあつて朝夷が傍近く小
 膝立直し。柳楼とこき雜し。顔忽地秋葉の雨と帯する風情ふらり。昨夜の
 のかん身が非道もも盡くといふれ。今更再び何といふん然ると女と侮ると。
 雪とも墨といひ消しく。妾のさう刀称小まを。あよる計校せり。なんど悪
 名負してその身の辱と覆りんとするかん身が心底黒なりとも比喩ともいふ術
 あつぬ麻徒者。それでも猛者先武丈夫。言禁のうへ証拠いふとも。ま老
 老毛の志のいふ。佯狂して遁まんと。あつたとも遁まんや。在のまふく傾ひて。
 任る人の氣も解て罪許さるともいふん。頼抵りて雪上小霜と加ふる

諭ふか。如何みくと声震りて。哮をさるその景勢。絶蕪る小引く入て。
 きの怖あつてえける。朝夷礮と白眼つけ。汝とそとや老老一ま。女がうも
 忽地小。その非を知りて陳ぶると。実と告て死するとする。その心底とさく
 感して人の将死ると。言と善と称へる。その口もまど乾くぬ。表裡を
 以て吾と罵る。這回いふく許しがう。尾籠みせると怒ふ。堪む。巻と堅めて
 左のみの小髻と。茂矢とおバニ言といふ。嗟やと叫びて其処へ倒る。これ祝て
 時直阿武隈大夫岩瀧羊瀬一般小。破髪狼藉を。刀小ふとけ。膝立
 直せば時直。後方と向きて者共来ま。とゆふ。早く應と回答て。豫て儲
 けし一味の諸士。閑の間。遅しと隔紙と。一度小を。と蹴抜きて。むしくと朝
 夷が前後左右小衝を。去来縛めの繩かれ。と。詰寄る。朝
 夷信と。祝を。吾小何等の咎あつて。縛あんとする。奇怪至極。頷ふ。太

らむら辛き目えせん。と鑼小弁一声なり揚て罵るる小怖もやまけ入る
 得小左右多寄属志。き下時直立かる。旁なると猶縁を倘惶しく
 命さち退き。比怯るると勵まを言葉。まも畢らぬ一人。け少く傍て朝
 夷の右の腕と丁と把る。朝夷颯とけ拵ひ突出志。卷小突る。膳此で得
 ましく倒れ伏を。繞て鬼を膝小引敷き。まも腕と揪る。まも目えせん。控
 と掘まば並べさ。折敷の上小平張伏して。大に守るる浅盤の中。蠢まきさ
 その谷ハ鯉小あさねど生作。迹さる来るとまも掘ちじ。甲居小頭と打さ
 そのま作及りのも有り。了得の大勢。谷小忍まて傍へ傍付は志。朝夷の従
 僕多。その物音をさつて。何事なりやと多あがり。間の隔紙用んとする小縁て
 期あうりこまれば。後へ銚柱緊とけ。推ども曳ども動く。あの方へ入さ
 有り。まも置くと罵ると。その容と窺ふの。再説懸城時直。思ふ小倍さる

朝夷が勇力烈く。縁て一も。荷擔人小とて語らひおたる。部下の甲乙七八人
 拋除らま。縁ひ仆されて。適息あるりの。ても蠢く。の。少物まひ。得志。半ハ
 死し。さるぞく。られ。まも。心。中。忽。地。小。五。分。の。怖。ま。と。生。ド。の。勅。る。る。と。仕。出。て。
 一家の浮沈。その期。究まらうと思ふ。の。伏。止。ま。あ。さ。れ。ば。阿。武。隈。以。下
 の。の。の。とも。信。と。駿。眼。志。の。の。の。の。の。の。佩。言。刀。と。守。ま。と。引。拔。き。朝。夷。自。が。け
 切て。の。心。湯。さ。う。と。朝。夷。も。同。く。刀。と。抜。騎。し。汝。校。者。何。多。の。故。小。辯。と。巧。み。吾。を
 して。死。地。小。陥。んと。する。ぞ。遮。莫。も。ま。ま。こ。個。の。猛。者。と。称。ら。ま。う。と。ま。と。束。ね。く
 ことと。俟。ん。將。細。首。ら。ち。落。して。修。羅。の。巷。の。導。さ。せん。の。小。ま。り。早。く。發。矢。と。研。る。
 時。直。ま。ま。と。受。流。し。反。と。刀。小。背。力。と。い。ま。ま。真。甲。未。座。と。膝。と。太。刀。と。右。へ。ら。し。朝
 夷。の。小。と。さ。う。伸。て。時。直。が。左。の。膳。と。劈。さ。り。當。下。阿。武。隈。岩。瀧。草。漑。ま。ま。一。容。小。太
 刀。ね。き。段。羽。志。て。朝。夷。が。前。後。左。右。透。の。あ。せ。研。て。か。る。と。受。亦。更。小。と。も。せ。だ。

身と逡巡て大喝一声。仇等が耳の根貫ぬくを。宛由奔雷の頭上小墮て。
 瓦屋も毀る斗るれ。足も麻木膽縮る。五臓小汗と流すの。敢て
 又向ふ術と知らば。朝夷太刀と把直して。三打三打。阿武隈岩割
 芋瀬等が首の宙へ落して。この時。死もや。膝の傷より。滾々
 と。滴る血。汝小苦。と。死や。と。計東の。悔りの。此
 期。あがりても。猶下の惜ま。斯て。あ。朝夷。傾て。首と。落。り。ん。死
 する真似とする。若ど。俯して。疼を。堪へ。息なき。如く。做して。朝夷。一
 勢。仇等と。刺。由て。四。を。今。火の。消。る。如く。何。処。と。人。の。気。勢。も。は
 然。ふ。て。も。も。僕。等。何。方。何。と。做。して。居。る。ん。の。物。音。の。噪。が。き。小。出。来。ぬ。を
 不測。する。と。次。の間。より。ま。と。の。次。の間。其。餘。間。毎。と。窺。ひ。つ。る。小。彼。処。小。言。ひ。声
 せえ。たり。あ。る。ん。め。り。と。往。て。往。る。小。果。を。隔。紙。の。後。へ。柱。と。堅。く。鎖。して。在。と

つんけ。引。抜。て。瓶。と。う。ち。開。け。僕。等。の。主。を。恙。なき。顔。に。大。ふ。ら。ち。歡。び。向
 より。交。り。太。刀。の。音。と。の。餘。声。の。噪。を。さ。さ。さ。と。思。ふ。う。頼。ま。ん。と。存。ふ。
 突。入。へ。き。口。い。も。消。して。更。に。用。を。元。来。の。家。の。案。内。と。知。ら。れ。ず。も。黙
 止。つ。お。ん。上。の。案。ト。う。ふ。を。事。小。在。り。て。飲。み。異。口。同。音。の。ひ。け。れ。朝。夷。の
 う。ち。点。頭。仔。細。あ。つ。ら。の。家。の。主。人。阿。城。四。郎。時。直。と。始。り。阿。武。隈。大。夫。ま。と
 岩。割。作。理。及。び。芋。田。莖。六。の。他。の。吾。等。の。名。と。不。知。る。殺。者。不。意。ふ。と。對。ひ
 る。小。因。り。或。ひ。抛。つ。け。切。伏。せ。半。生。半。死。の。者。も。あ。り。ま。と。死。つ。る。も。せ。く。み
 ぐ。ん。吾。既。小。諍。論。と。法。め。ん。と。使。節。小。ち。か。騒。擾。小。及。ぶ。と。鎌。倉。ど。の。人
 對。して。言。解。術。も。る。れ。の。う。う。辯。の。あ。ふ。及。ぶ。ま。と。止。事。と。得。る。る。り。れ。が。の
 分。解。小。腹。か。き。切。ら。ん。と。覺。悟。い。せ。が。ま。と。熟。と。い。ひ。之。を。吾。等。の。所。で。今。と
 隕。さ。酒。與。小。衆。ト。假。初。の。喧。嘩。り。と。入。り。然。ら。ん。時。君。令。の。重。さ

と成辨へん。狂き私の怒傲とありて。他と殺しその身も死と。不忠不孝の
 徒ありとして。家尊の大人が威とさへ落さん。実ふ不孝の所為るまじ。一切と
 命と惜むあはねど。先鎌倉へも飯の件と問注所へ詳ふ訴へ。公裁
 と作らんと。そまふ就て。彼処る。息あき者へ更ふ要あり。任意頭へ打毀し。
 腕へ折らうとも。息ある者と悉く將て飯らんと思ふる。你等捕縛の准
 備も。領と未と。心得と。雑人等荷物と緘げ。麻繩と。解て
 各こふ。纏つ。主の後方へ引副て。彼処へ到ら思ひき。赤ふ染る死骸
 さか。夥敷あらん。おふ於て雑人等。祝ふらも暗き身も戦慄れて。
 左右より進み。朝夷後方と祝ひ。要ふまじ。雑人等。疾く索と
 ちん出せし。自ら把て片端より。息絶て蠢く。のど。三四個引縛し。左京
 兩個とひつ提て。下僕等。通す。借時直い。ふと祝ふ。渠をの始め怖

あり。虚死して居りし。膺の疵の疼ふ。地へ。渾身の血。残ら下し。思ふ斗
 り。小滴を流し。果ふ。大腸小腸も。かの疵口より出る。あま。疼痛。忍び
 ぬ。早くも夢の心地ありて。吾ふ。叫びて在。この時終。息絶たり。
 これ。因て朝夷。渠を死骸と。返す。嗟。過て。這奴と。証拠と。す。第一
 ろ。殺し。残念。殺す。立傷。強く。打。絶。す。
 夫も。久。その。做。れ。凍。の。五。骸。今。更。不。獲。生。き。谷。の
 あ。脱。き。奴。ら。吐。き。出。て。雑。人。不。荷。物。と。負。せ。又。虜。と
 曳。せ。既。小。形。城。門。の。末。未。了。後。より。兵。弗。と。弦。音。高。く。一。筋。の
 征。矢。飛。来。つ。朝。夷。が。警。と。颯。と。拂。ひ。餘。矢。の。門。の。柱。へ。衝。え。破。毀。僻
 者。よ。と。祝。け。す。その。親。を。定。り。え。ね。彼。処。あ。ん。と。察。す。る。劍。の。疾
 撮。棒。と。右。ふ。把。り。取。て。返。し。韋。駄。天。の。荒。る。如。く。踊。上。り。て。入。ま。は。す。の

や矢と射損ぐ。奥へ逃込む者のあり。朝夷遠き逐めて汝の好城の即ち。
 主と討て當の敵と。討んと観着る健の挙動。勝負をて得さるべし。
 傾く返せと心り。彼者の猶面もあらず。所へ逃る。朝夷四下。
 と配。何方までも逐菟ぬ。道なき道なき。その暇ふ矢うち番。
 兵と發てども。這回心急まる。空ち着て傍ふ飛ぶ朝夷。顔とて。
 城が家の邸堂。思ひの外。湯島と。汝先頂佐。今それ。
 権の家臣と。下小戮。生て遮り。再生の恩と。報せん。
 矢と射懸。執念く。恨む心。その釈せん。
 へ。未。深き故由。問れて。二句の答へ。腰ふ佩。
 引抜物。切て。朝夷例の鉄撮棒。把直。
 面。狭。鴨居。低。左右。自在。

刀と抜き。渡。今。丁。五合。合。朝夷。
 搦めんと。命。状。不。湯島。
 猶。湯島。目。受。雷。
 未。塵。家。不。藏。
 意。と。奴。僕。婢。女。
 心。安。嗟。然。
 限。多。命。死。
 秋。の。夜。不。得。長。



猛八
獸六
郎
不憶
危難

あハ



まろハ

あハ

へ遣りてつんどう小宵不仕さる。飯あり菜あり。火を名消て湯茶の
なけまど。腹と肥まの要少い足りぬ。將此方へ持て来よとて。残るを
つ。主従ありて十分。うち啖ひるどまる。たや見こと日ひさう昇るぬ。
時刻いりところ所て徐こそ去りけり

義漢道路遭災厄

忠膽貫主僕再會

于粵岡田冠者遺腹の旅店の主猛八と。腰越獸六郎の両名は。属下の
者俱小十人可也。荒川縁の家と。夜と日小嗣で急ぎまぐ。其道と小も
近々を思ひの外小日と重ね。漸く小と陸奥なる。南部の境不到る。ま
あて人の風と聴小。あ四五日前鎌倉の檢断使とて。朝夷の義秀と云ん
り人の通らま。さうといふと。斯といふく相違る。ま其案内の知ら

ととつと。岩城山弘前より。南の方とさる。小彼処と作て往んぬと。
磐城の山と目的とて。只管道と急ぎける

因ふり陸奥へ東山道の大国小して。往昔二十六郡。後小五十四郡
小領つ殊小その境廣りして。王化の達ぐ。元明天皇和銅五
年。陸奥越後と裂合。出羽のふと。放筆ひとのふ。出羽小十一郡。後小
由利の郡と加へ。今その負十二小あり。國高小七万石餘との小。但
諸書と按る小。悉く異同あり。陸奥大管五十四郡。東西
六十日大上国。田數四万二千五百七十七。知行高百七十三万五千石。昔小曰く
百九十二万石。ま百八十七万石と。いもと孰も是と。知。本文磐城と
称するの弘前の南の磐城山といふ。今安壽姫の古跡ありて。権現小
崇め祀る。江戸より弘前へ百十里。南小ありといふ。行程のま詳

磐城平と称する所の磐前郡の内小ありて江戸より五十五里と云
 磐城山といふ大殊あり。その地名紛ひ安きとて童蒙のまふ断つもの
 倭而ゆくと数日ふく。大野といふ所不到。あのもすて山家ふと家
 居とるる小柱あり。浦曲のまると摸りたる繪小煙をまぶく塩屋の如く。
 左右の檐の地小着て棟を高くける。かの神武の詔小賤民の穴小棲
 巢小栖と宣ひし。今更かりひ出らる。景勢小人といひて珍らあて立りて。
 家の内とよく復る。年十五六の未通女居り。色小黒くと洪深の敷紙てふ
 りの小似する。白き麻の衣と云ふ。その裾殊小短くして大と膝と頭い
 さまは異形ありていふべし。古より蝦夷と称へ父子夫婦の差別あり。男
 女所と同ありと。舊き書小も記されり。正小是等のし。や。とうち。祝ありて
 行やどふ。ま。五。六。里。と。過。り。ま。一。筋。の。大。河。あり。て。是。より。先。磐。城。といふ。此。処。

ろ。の。山。家。と。違。ひ。て。人。物。の。陋。け。も。も。蝦。夷。と。唱。あ。る。ま。を。い。ふ。え。ま。
 只。言。語。の。自。鬼。小。の。り。と。聴。き。難。き。もの。多。う。ま。人。の。辛。じ。て。此。処。ま。を。
 未。う。り。け。り。も。彼。四。郎。時。直。が。館。え。程。の。近。う。く。と。大。河。の。ま。の。茶。店。小。
 憩。ひ。と。ま。容。子。と。尋。ぬ。る。小。更。ふ。あり。う。る。者。も。あ。り。日。影。の。早。く。の。西。小。落。て。
 申。刻。比。と。も。覚。り。ぬ。る。大。河。と。ま。ち。渡。り。ん。但。し。此。処。ま。宿。と。ま。索。を。て。
 聖。と。尋。ね。往。ぬ。や。と。その。便。宜。と。計。る。と。小。忽。然。と。う。て。前。面。小。九。人。数。五。六。十。
 群。と。出。来。り。の。く。利。鎌。竹。陰。ま。ん。と。其。外。得。物。と。引。提。て。集。ひ。来。り。傳。
 え。き。農。夫。一。揆。と。い。ふ。の。也。覚。東。あり。と。祝。居。る。小。渠。ま。此。方。と。信。と。祝。て。
 腰。より。各。小。竹。螺。と。出。て。と。吹。さ。る。その。音。宛。然。凄。ま。く。ま。折。り。遠。る。
 樹。の。間。小。繁。然。幡。幟。の。影。を。見。え。て。曳。と。開。と。揚。と。押。来。り。人。数。百。人。と。い。ふ。を。
 猛。八。及。獸。六。郎。の。互。小。眼。と。眼。と。見。あ。り。て。這。い。何。事。の。出。来。つ。ん。ま。ふ。這。回。磐。

城の山論けんろんその檢断けんたん不朝夷大人ふてういだいじんの未まとつとと聴きるるがその檢断けんたんのこふ就つて斯しの如ごとくの騒さわきふ及およぶや。丈夫しやうぶもまこと知しるるを。若わ然ぜんらんぬ朝夷大人てういだいじんの身みの存ぞん亡ぼう不ふ罹らふ。斯して猶なほ豫よるるを。兎とも角かくもる河かと渡わたりて后のち不ふ次じ才さいと聴きるも差さらぬとる。一いつ臂ひの脅おそれと助すけくべしと頼たのみ決けつめて岸きをこふ到いたると。船ふねやあると入りて折をり。件くだの人数にんずも近ちか付づて。口くちも入いるや。其そこ処ところある奴やつら。い謙けん倉くら訛しと。あまもる不ふ朝夷てういが。方かた人ひとあてありぬべし。若わ然ぜんもあふ逸いふ。擲なめて曳ひくと知ち縣けんの指さ揮き。其そこ処ところ動うごくると詰つめする。猛まう八はち獸じゆう六りく個このりい少すこも騒さわげると氣き色しきる。いりふも吾われも朝夷大人てういだいじん由ゆ縁えんありのる。彼かの人の迹あとを逐おうて今いまの所ところへ来きる。のいま面會めんかいの。其その款くわん不ふ知ちる。其その何なに故ゆゑも彼かの人の方かた人ひとなりと吾われ等らと罵ののる。丈夫しやうぶの事ことと逐おふ。語ごて後のち不ふ擲なめるとも。知ち縣けんへ曳ひとも為なる。嗟あはれ騒さわもも農のう夫ふ們ら去い来きる。款くわんと頼たのみと詰つめまも

口くちも入いる筋すぢ具ぐもあねと。城しろの守まも護ごる時とき直ただめ。其その外ほか眼がん代だい阿あ武ぶ隈か大夫たいふ知ち縣けんの岩いわ淵えん芋いも田でんまで。ま來きる。斫せき倒たうし。夜よ不ふ紛ままて朝夷大人てういだいじん何なに方かたとも。去いる。逃にげる。然しかも。あつちの守まも護ご眼がん代だいも。少すこ少すこ於おる。吾われ們らと促うながして行い方かたと探たづね。擲なめて出いせよと。其その分ぶん付つけの嚴げんまり。汝なん等ら由ゆ縁えんの者ものと。少すこ少すこその俣もとあい通とほり。が。のいま面會めんかいも。すといふ。開ひらくと分ぶん解かいと。さされんや。頼たのみ。ま然しかも。あつち。逸いふ。縛しやくして曳ひく。ゆえん。各おのおの海うみ物ものと。ち揮かりて競かひひ鬼おにれ。ふと擲なめて。そ者ものども卒そつ爾にませと。你なん達たちも粗あらす。知しる。ぬん。朝夷大人てういだいじんの信しん義ぎの。士しも。故ゆゑも。丈夫しやうぶの。人ひとと殺ころして。あ地ちと。退ひく。と。做なさん。せ。不ふ仔こ細この。る。ら。や。你なん達たち精せいも。き。款くわんも。あ。も。任にん意い守しゆ護ご眼がん代だいの。下した知ちあり。あり。と。罪つみも。る。以も途と行人ぎんじんと。擲なめ。とい。鳥とり許もとある。ふ。限かぎあり。其その外ほか除のぞけて。通とほる。か。り。と。も。猶なほ立た塞さいぎ。通とほる。と。是こゝ非ひも。吾われも。一いつ個この。杜たま。と。阿あ容ようと。と。你なん

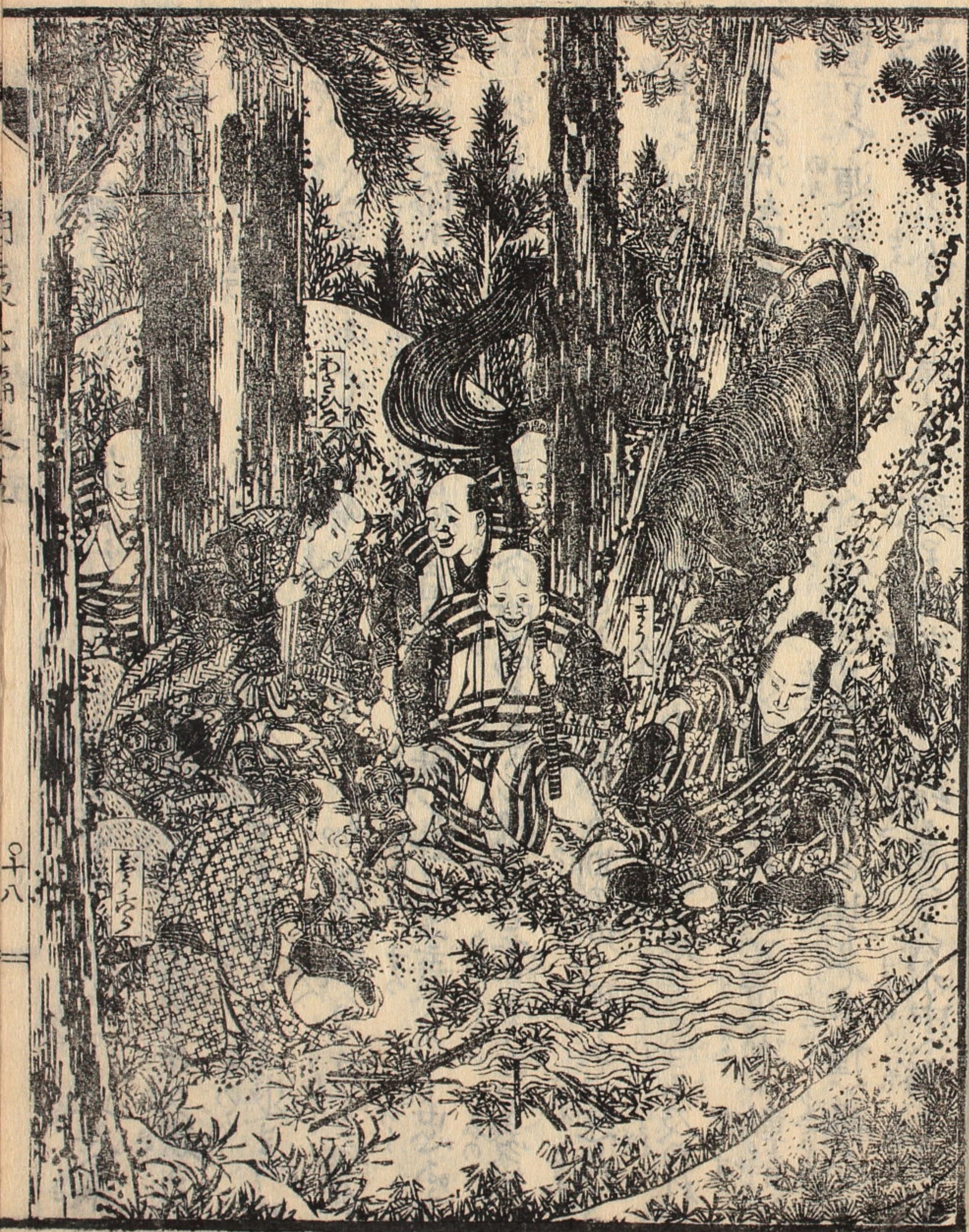
達小搦めらして曳まんや。元来仇も憾もなき。你達と死と争ふも益
 とするも絶てり。勢ひの自然に因て銘の身と過つ。心ある人のまゝ所悟
 道と閑けより。と辞と好むの心も。面と和らげ説といへ。農夫們
 の聲入る。噪き立ち。僻ゆく中。小年若き者ども。その言葉と耳ふ。め
 り。賢く。小いひ道ま。避んとするも。道さんや。兎角の言と。貴んり。打
 倒し。搦めよ。愈一容小のひ言。矢庭お打て。この言。這い。安釈。云。未然
 ら。逸。汝。首切。道と閑き。通らん。者共。準備と。後方。控へ。一
 属下の。の。不言。猛八。其。処へ。踊。出。と。獸六郎。の。隔。限。も。あ。ら。ぬ
 彼大勢。も。如何。小猛。く。も。愈切。拂。ひ。て。通。らん。と。及。び。ど。と。
 且。属。下。小。過。あ。ん。若。今。面。言。葉。と。喝。一。宥。め。て。と。通。らん。の。同。も
 あ。農。夫。們。既。小。間。近。く。進。こ。う。打。倒。さん。と。失。め。不。言。葉。と。以。て。説

術。猛。八。腰。も。二。刀。抜。も。不。せ。先。小。進。一。漢。吉。の。小。鬢。と。下。と。破。破。驚
 切。り。と。言。と。狂。ひ。廻。る。迹。小。統。き。数。多。の。人。と。嘈。と。り。声。弁。一。途。も
 何。せ。む。好。む。て。か。獸。六。郎。も。属。下。の。者。也。這。一。大。事。小。及。び。り。斯。る。人。各
 小。腰。の。刀。と。引。ぬ。き。群。が。中。へ。割。て。入。誰。と。敵。も。定。め。ぬ。滅。多。お。小。進。き
 ま。り。ま。深。瘡。と。負。へ。あ。け。ま。ど。も。或。ひ。肩。先。腕。首。割。所。き。り。と。疵。と。け。
 恐。ま。と。退。く。の。も。あり。ま。此。容。小。見。懲。せ。ば。と。引。捉。へ。と。柄。お。せん。と。
 蒐。ま。り。の。も。あり。得。物。で。刀。と。け。雷。つ。も。竹。槍。と。伸。て。突。か。る。と。いと
 急。な。り。こ。不。於。く。猛。八。及。獸。六。郎。と。豫。て。の。練。小。渾。才。と。傷。つ。無。れ。ど
 遺。ら。る。者。の。腕。の。力。あ。れ。と。試。合。小。刺。ま。或。ひ。肚。肩。先。と。突。破。ら。ま。て。痛。小
 弱。其。処。へ。平。張。り。の。も。あり。農。夫。們。の。勇。お。て。蒐。つ。その。威。勢。侮。り。が。く
 又。え。け。と。猛。八。小。飛。鳥。の。如。く。翔。り。巡。り。倚。来。り。め。と。斫。倒。ま。と。五。人。可

獸六郎もあど先途と膂力と究めて切たる威勢將小奮然れ農夫們の
 辟易して霎時後方へ引下り。困り聊解さるる兩個も息あつと吻き傍と祝
 り不屬従がひ。甲乙あつて深瘡を負て西三人と死せしもの斯くこれの特
 異なり。去来今一撃目小物とせし透と窺ひあつた場と去らん。渠等不便の景
 状あると是と救ふの暇も後ふと再詮方あり。続ききくと極八がえかへる
 不ふ獸六郎も心得なりと属添めて去らん。早むる足元農夫們はこれ
 遁するにまこと群と押取捲と猛八顔と小斫拂太刀風小大く並傍得ぬ間
 と候ひ一町斗り。走る向ひ小ま二旗とと捕へよと荒名の人數競ひかへる
 ことどもで進へ入ると先ふする。兩三個不傷つこと。是れも以て飛返巡
 中と明けは湯とるや志と獸六郎も諸共太刀とらち揮り見ぬ。威しと
 あつと駈通る。有斯とらう右の方。川小副と二旗の人馬遙不突出と兩個

を作ぎて是と入る。この這の農夫の体もあつと。真先不憚とこそ。人數九四五
 十人。その跡少の弓矢鉾など。携えたるもの。三十人頭。あつと。騎馬二人。あ
 餘の雜入此彼合せ。百人可とと入えぬ。土煙りてきて馳来。是れ
 向ふ農夫等も。あつと。所の守護眼代と。言と。いこのてあつと。先刻より戦
 りの勞と。咽乾けと湯水と得と。腹空けとと飯と啖りぬ。不らと筋
 力弱とと。心と。早と。この大敵もあつと。然と。このへと不憶も。兵
 書も。所謂重地も。入て。如何とも詮方あり。お勢近く傍あり。吾等一切辨
 べぬ。あつと。の解と。赦ささん。安穩も。退べ。倘と。あつと。赦ささん。あ
 今と。限も。戦も。あつと。終りも。取ん。足下。い。あつと。思ひ。あつと。猛八。い。あつと。更も。
 覚悟。究め。景勢。あつと。泰然。あつと。い。あつと。獸六郎。い。あつと。貴所。の言葉
 勇ましく。勇六。誰も。斯と。あつと。あつと。あつと。在。下。思ひ。あつと。所謂。一旦。の死と。控

朝夷小會合走
猛八獸六郎因らば



朝夷小會合走

〇十八

近傍きふ打倒えんと矢めくあまの射謀まきんと矢とらう番ひひき
絞りのもあり。西個いのりく大音あげて。筒の如くおほなるやふと秀秀是
とやあへき。容子あひげと澄と踏む。鞍壺小衝えあがり。かの叢るる人と祝
ふふとや行黒て定るるれど。獸六郎ふうく似たり。然いあまきと此もく渠の
来へき苦もろ。這い僻目ふてあへげとど。渠は僅小西三個少も怖るべからん。
近く招きて言葉とせんと。雜人們と制駐め。その所と退く。兎角する間ふ
獸六郎と猛八い出来たり。傾て朝夷馬の前ふ進。未と朝夷の眼と止
めて緊系と祝ふ。獸六郎疑ひ多き。這い何とて此処へ来り。嘗來るこ
よと向けらる。獸六郎の額着て是へ参り。縁故はさるぐの仔細あり。後
小寛りと語り何げん。まろる體小恙多。あて見え奉つる。夢との思
ひと。筒ふ風ふおん上と。兼いとい磐城あて。大難ふ遭ひ。いと信偽定

くふひり。粗虚言ありあさる。下と思ふとえい。如何ふあり。ゆたのひりと
心と痛むあり。とて朝夷うち点頭いふ。筒様とて。思つても磐城を
えぬ衆くの人と斬害あり。直ふその場で腹きんと。思ひおけと。鎌倉の
尉刀称のあしの上お係る。とやあん。と思へ死ぬふ。得死まき。先
滋倉へ立帰りて。緯の顛末さえあげ。鬼も斯も。んと思ひて。証救の為ふ
搦め。半生半死の侍ども。雜人們。身さきせ。磐城とて。あさるけ。処是
るる人。跡と慕ひ。吾ふ告てい。吾們を卒士の嶺青木の人民。昨日
大人。裁断あて。年来掠め取ま。田畠えの如く。ある。その飲ひと言。さんそ
その夜。磐城へ到る。宿ふ。明ると。俟所。磐城刀称の館。あて。如此
の騷動あり。這い忠直。朝夷大人と。陥い。んと。ある。事起。まると
人い。まら。その真偽。と。知。む。と思ふ。磐城阿武隈以下。こ。これ

勢小あふ。日中の程より飲食と新しとあまの勞と多しん侍ひ今宵山越の
 準備小齋と割籠あり。是を食と凌ぎりんと早チ櫃より把却共え思
 ふ。今日の宵闇あて。路の程き覚束なき小且此処を休息あり。足下き話
 説も聞く。まこのことも多くあり。去来者も河をこ生さる。若を劫て圓座
 みるせ。まご樹の枝と伐卸て火と焚よと示し。以上の員百人可と思ひ
 かりひ山居して割籠と閑りのあり。朝夷猛八獣六郎の三個中央小
 坐とあて。傾て過去行末の物語とを始りける。畢竟のふ會合して後その
 顛末いろいろん。絆長けま編と嗣巻と換て鮮んの。拙著と陋あある
 ぞと。尊覽と愿ふのあり。

朝夷巡島記全傳第七編卷之五 終

軍書小説類藏板目録 大坂心齋橋通 北久寶寺 河内屋源七郎

楠二代軍物語 平少将 繪入 五冊 繪本雪鏡談 春曉 繪本 十冊

楠正行戦功圖繪 本後 十冊 同金花談 春曉 繪本 十冊

神功三韓退治圖繪 皇太后 五冊 同孝感傳 同前 十冊

同龜山話 同前 十冊

同顯勇録 同前 十冊

同忠孝士見浦 南堂亭 著作 柳齋 重春 畫 十冊

九洲諸將軍記 十三冊 同月宵物語 真顯 作 十冊

復讐言山有英雄錄 初編 七冊

同 二編 澤東陽主人詞述

同 三編 六花亭富雪画

復讐言山有英雄錄 第四輯 七冊

編者 三津主人 編輯 澤東陽主人 詞述 六花亭富雪画 同日發版

繪本誠忠傳 十冊

同 合邦辻 十冊

同 皆茅草紙 十冊

同 淺草靈驗記 十冊

同 忠孝美善錄 十冊

同 彦山靈驗記 十冊

同 寫英勇記 十冊

同 金毘羅神靈記 十冊

大天代記圖會 六冊

新累解脫物語 五冊

昔語質屋庫 五冊

同 中編 五冊

同 後編 五冊

小栗外傳 十冊

繪本忠臣藏 十冊

同 後編 十冊

同 拾遺 十冊

朝比奈巡嶋記 五冊

同 七編 五冊

同 八編 五冊

繪本西遊全傳 十冊

同 編 十冊

同 編 十冊

朝比奈巡嶋記 五冊

新史 秋七種 曲亭主人述作 六冊

阿保久社の近江世話を古南朝の秋の御世の
人附るる門に寄る勇士の策謀あり 後益
附たりお主の御に寄る記ありと云々

石言遺稿 同前 五冊

選江の風 同前 五冊
香川の里の事記ありと云々

月氷亭縁 同前 五冊

金花 梅春里谷職作 北嵩 五冊

孝子嫩物語 蘭山作 五冊

繪本夜船譚 長春庵書房 六冊

鳥 合田菊亮作 小冊

復讐言初瀬物語 櫻枝亭 七冊

復讐言初瀬物語 北明画
願五十年文持摩訶鉢囉囉囉
出身 河内郡 阿野の郷 山にけり物瀬所 彼とのこと
健田水走が長安の事 渡津國にけり瀬が瀬 其の左
近父の仇を奪せし國にけり瀬に 再會の事 備より人
の警に 妖賊と成せしこと 初瀬の觀音の靈驗と傳は

開際筆記 廣齋藤井先生著 三冊

新田足利の外名將の評論 聖武帝の傳を
重んじて長室皇子の死を賜ひ 論見は國
存没の由を石體油なるも漢人我臣のこと記を
の事 諱をこころし 事 聖徳太子の聖人として
過泰の松輪と云 藤原の事 聖徳太子の
て 後をよめる 傳説と云 論 表山の説 古吉
公人 聖徳太子の事 記をよめる 餘 北漢古今の
編 聖徳太子の事 記をよめる 餘 北漢古今の

繪本那智白糸 蘭山著 北嵩画 六冊

同 魁草紙 平町書房 五冊

同 奈古曾の蘭 廣和亭 五冊

同 平泉實記 蓮水春曉齋 蓮作 十二冊

同 自來也説話 秋和亭 十冊

同 口之碑 廣齋藤井先生 五冊

風流俄天狗 町編 十冊
村上松園子の撰 後編 十冊
村上松園子の撰 後編 十冊
四年 波川 目尾 三置 田依 又依と云々
は 附るる 附るる 附るる 附るる 附るる

紙治 楮生淡 東渡作 五冊

復讐言東物語 金六番作 六冊

同 安達ヶ原 日吉屋 六冊

再開高臺梅 東渡作 六冊

繪本白壁草紙 東屋史作 六冊

見外白守巻 五冊

通俗巫山夢 五冊

貧福太平記 春の屋主人 三冊

三 大築堂 蔵 反

